

検討会結果概要

総合政策局技術政策課・大臣官房技術調査課

- 国土交通省では、災害復旧・復興支援、被災者の救援・救助、平時での施設点検や地形測量、気象観測等の行政ニーズに適切に対応するため、直轄現場等を実証フィールドとして活用しつつ、業務執行上必要となるドローンの早期実装を図るなどして、安全かつ迅速な災害対応、平時における生産性の向上等を目指しており、「第5回行政ニーズに対応した汎用性の高いドローンの利活用等に係る技術検討会」を令和4年12月22日に開催した。
- 本日の議事では、事務局から、令和4年度実証の中間報告、ドローンの性能規定化に向けた方向性等について説明がなされた。
- 令和4年度実証の中間報告については、今年度実施した、静岡県東伊豆町における小型船（港湾業務艇）からの支援物資輸送、川崎港における自動飛行での画像撮影による施設点検、三河港におけるグリーンレーザーを搭載したドローンによる海底地形測量の実証結果の報告等がなされた。また、ドローンの性能規定化に向けた方向性については、施設点検、測量、支援物資輸送などユースケースごとに求められるドローンの性能をまとめていくことや、あわせて将来的に求められているドローンの性能についてもまとめていくことなどの説明がなされた。
- その後の意見交換の中では、関係団体からは、「支援物資輸送については性能規定化を検討するにあたり吊り下げ方式による荷役も念頭に置くのがよい。」「動揺する小型船等に自動飛行で着陸する際にはフック等を船舶に引っかける形での機械的な仕掛けを用いて着陸することも考えられる。」「施設点検ケースの実証で多くのひび割れを撮影していると思うのでたくさんのデータを分析していただきたい。」「グリーンレーザーの性能検証については透明度のほか定性的にはなるが波の立ち具合も考慮する必要がある。」「グリーンレーザーは性能により機材が大きなものになるのでどの程度の性能が必要かを考えた上で必要なペイロードを有したドローンを活用するのがよい。」「測量ケースの実証でドローンの飛行の精度を分析するほか、波の状況や天候、風速・風向についても分析を行うのがよい。」「非 GNSS 環境下での飛行についても検討を行っていただきたい。」といったコメントがあった。
- さらに、「小型船からの支援物資輸送については操作技術の習熟度をどの程度まで上げられるのかも踏まえることが必要である。」「船舶への自動着陸技術は海外での実績があるので我が国も実現できるはずである。」「船舶からの支援物資輸送については運ぶものや機動性にあわせて小型のドローンを活用するという事なども考えられる。」「性能規定化にあたっては客観的な指標で性能をランク分けし定量的に求められる性能を示すのがよい。」といった意見もあった。

○次回は令和5年3月頃開催を予定

(以上)